

旅とインテリア

～ 私の旅行術 ～

塚口 眞佐子

旅の楽しみは「どこに泊まるか」にもある。今回は私の海外体験から、アパートメントという宿泊施設をそのインテリアの傾向とあわせて紹介してみたい。私は2014年のアントワープを皮切りに多数経験してきた。なにしろ価格と品質のパフォーマンスは最高だから。

数えてみると海外旅行はこの30年間で65回に及び、ほとんどがヨーロッパだ。建築史上の有名住宅を見て回った。そのうち日本ではほとんど紹介されないことのない東欧のモダン住宅の存在を知り、さらに東へ東へと脚が向く。いったん東欧にはまったら、街の魅力もさることながら、ビールのおいしさ・人情の温かさ・物価の安さも手伝い抜けられなくなる。

その東欧、特にまだまだ田舎なバルカン諸国ですら魅力的なアパートメントが急増している。例えばベオグラードの国会議事堂に隣接という一等地に建つ集合住宅の57㎡の1LDK、しかも本物のアンティーク家具や年代感のある造作、水回りは現代的でキッチン完備という物件が現地のビジネスホテル並みの価格で宿泊出来る。バルト3国やワルシャワも然り。



ベオグラード(セルビア)の集合住宅

チェコのブルーノという街、ここはミースのチューゲンハット邸の見学者が訪れるチェコ第2の都市だが、このアパートメントも特筆ものだ。ミニ・チューゲンハット邸と言えるほど豪華な仕様の90㎡超の一軒、インテリアはまさに日本のタワーマンションのモデル写真のイメージだ。ここも驚くほど安い。

ブルーノ(チェコ)のアパートメント



しかしこういった物件は少数派である。評価の高い物件の大半は(予約の際、ほとんどの物件を細かくチェックするのだが)、ごく最近、古くても3年以内に改装した集合住宅の1室が多く、小物・食器に至るまで見事にIKEA ONLYである(東欧で



ソフィア(ブルガリア)のアパートメント IKEA スタイル

はその傾向が特に顕著)。それなりにお洒落でカジュアル、快適とは言うものの、どこも似た雰囲気では何か寂しい気がする。しかし考えてもみると程々の投資額で、世界中の客の公約数にアピールする写真映えの良さ(予約サイトの写真がものを言う)となると納得出来る。全世界的なアパートメントブームでIKEAはどれほど売り上げを伸ばしたことが。

ところで是非キッチン付のアパートメントをお勧めしたい。私はもともと料理も趣味ゆえ、外国の市場やスーパーで食材を買い外国のキッチンを使うことはとても楽しい。まさに暮らすようにその街を堪能できる気がする。レストランに疲れた時、ホテルなら持ち帰ったパックから食べるしかない、ちょっとわびしい。アパートメントならたとえ料理しなくても皿に移し替えばディナーに変身する。たいていはワイングラスも充実している。

ここで1つアドバイス。何より鍵の受け渡しのハードルが高いのが欠点だ。到着時刻の事前連絡が必要で、これはメールで



自炊(self catering)の夕食例 黒いのは血のソーセージ

片付くが、現地に到着すると「今着きました」と連絡する必要がある。オーナーが中から出てくることもあればよそから駆けつけることも。少しでも遅れたくないものだ。到着時刻が読めないこともありここが唯一のストレスフルな局面だ。だがこれをクリアすると快適な地元暮らしが体感出来るのだ。最後に、グーグルのストリートビューで外観も確かめておきたい。なにしろ看板がないのが大半だから。



大阪府インテリア設計士協会

〒541-0059 大阪市中央区博労町1-6-14
TEL. 06-6262-1488 FAX. 06-6262-1553

URL <http://jp-interior.or.jp/ois>

E-mail ois@jp-interior.or.jp

facebook「大阪府インテリア設計士協会」

4・7・10・1月 4回/年発行

発行人: 河野 洋二

編集: OIS 第1事業部会

60年の歴史 No.112

速報

第60回インテリア設計士資格検定試験

コロナ禍の影響で約3か月の延期となった、60年の歴史を刻む、第60回インテリア設計士資格検定試験が10月17・18日に中央工学校OSAKAで行われた。大阪の受験者は67人(1級1人=社会人、2級66人=畿央大学30人・羽衣国際大学14人・中央工学校OSAKA13人・大阪芸術大学短期5人、尼崎工業高校1人、社会人3人)。奈良県インテリア設計士協会において、会場の大学が使えず、やむなく大阪で併合実施となった畿央大学から30人の受験があった。

試験当日は検温やアルコール消毒、換気等コロナ対策を講じたうえ、2つの教室に分かれて実施された。

2日間にわたり実施される検定試験。特に今年は対面授業日数が少なく、受験者にとっては作図の時間が十分にとれないなど、廻りには分からない目に見えぬ苦労もあったと思われるが、多数の合格者を期待したい。

合否発表は11月24日までに受験者に送付される。

会員60年目に思うこと

植村 哲



いつの間にか会員として60年目を迎えた。改めて振り返ってみると、月並みな感想ながら長かったようでアツという間であった。協会創立は昭和32年(1957年)、昭和33年(1958年)に第1回「室内装備設計士資格認定」が行われた。昭和36年(1961年)、資格認定から資格検定に移行、以後、毎年1回実施し今日に至っている。

第1回から数えて今年で60回、その誕生から今日までの成長の過程については関係された皆様のご努力の賜物と敬意を表します。特に、今年はコロナ禍での開催、苦渋での判断とお察しいたします。私は第1回検定試験に試験を受け、本会に入会している。まだ、その頃は戦後の混乱を引きずっている時代であった。今は当たり前前の「インテリア」といった言葉もなく、「室内設計技術家協会」といい「室内装備設計士」といった。いかにも、重々しく深みと厚みを感じる名称であった。

その後、類似する検定資格が増えるなか、名称を「インテリア設計士」と変更し、60年の歴史を積み重ねてきた。

これからの社会状況の変化は、過去の60年に比較にならないであろうと予測されるが、いかに世界がグローバル化され、IT・AI化しようとも、人間の必要とする居住空間、商業空間等は無くならない。

今後はもっと多様化した活躍のステージが現れそうだ。大阪にとっては2度目の万国博覧会も開催される。一つのレパトリーとしてインテリアを把握し、そして更に関連する分野の興味と研鑽

が必要であり、勉強すべきことは沢山ある。

協会も会員一人一人も、日々いろいろな課題をかかえている。それはあって当然、しかしおそれることはない。「強いものが生き延びるのではなく、環境に順応したものが生き延びる」とか。

今は世界的なコロナ禍のとき、歴史的な転換期となるであろう。個人としてはフレイル[※]に陥ることなきように、何事にも積極的に取り組みたい。

協会にさしたる貢献も出来ず、年齢だけ重ねてきた感じで、申し訳なくも思うが、こんな会員が一人ぐらいいても面白い。ご迷惑をかけないように注意して、これからも会員の皆さんの活躍と協会の益々の盛況を祈るのみである。

※フレイルとは年をとって体や心のはたらき、社会的なつながりが弱くなった状態を指す。コロナの陰に潜む社会的課題。

【学歴】 県立吉野高校卒、浪速短期大学卒 (現:大阪芸大短期デザイン美術学科)

【職歴】 ㈱ウエタニ〜㈱関西総合コンサルタント 大阪デジタルテクノ専門学校 非常勤講師

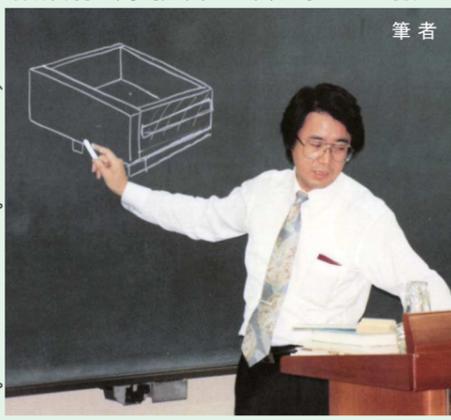
【デザインコンペ】 20件近くエントリー...ことごとく連載連敗

OISの回想録 (4) 顧問 足田 友一

今回は、記憶に残るOISの全盛期に関わった事業についてお話ししたいと思います。

バブル景気で企業も収益が良く好景気の1986年(昭和61年)~1991年(平成3年)からバブルがはじけて数年、平井会長→植田会長→私が会長を務めた時代の話です。

私が(株)高島屋工作所(現:高島屋スペースクリエイツ株)でインテリアの設計や現場監理などを行っている現役の頃、「インテリア・スーパーバイザー養成講座」という講座がありました。この「インテリア・スーパーバイザー」という名称は未だかつてOIS以外で使われたことはありません。それは「インテリア

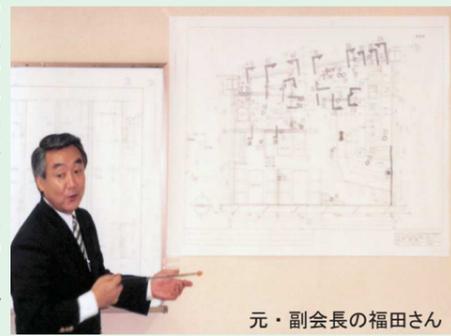


筆者

アの総合的監理・監督者」を意味します。社外研修として多い時で11人の受講者があり、受講料も全額会社負担で派遣してくれました。受講者の多くは設計・施工・監理関係の各社の現役の社員や管理者で、広く関心を集め大盛況でした。

講座内容は、①造作の施工図面作成、②インテリア材料、③施工図面を見て見積りの拾い出しと見積書の作成、④現場監理の基本・墨出しの仕方・現場工程表の作成、⑤インテリアに関する設備と、その内容は専門的でレベルの高いものでした。

①~④まではOISの理事達が講師を担当し、⑤の設備の講師は植田会長の勤務先、(株)安井建築設計事務所の設備専門の社員の方でした。この講座もバブル崩壊後の景気悪化とともに企業からの応援が得られなくなり、受講者が減少し2003年(平成15年)に中止せざるを得なくなりました。



元・副会長の福田さん

この「インテリア・スーパーバイザー」は、まさにインテリア設計士協会の基本理念としての「インテリアに関する計画・設計ならびに生産・施工から監理にわたる優秀な技術者を養成するため」に相当する内容であると確信しています。新型コロナウイルス感染が収束し、日本の経済が持ち直した時には、他

の資格や協会にない「インテリア・スーパーバイザー養成講座」を先輩の意志を引き継ぎ、是非OISの皆さんと本部の協力を得て再度企画・提案し、全国都道府県のインテリア設計士協会にも広め、日本インテリア設計士協会の新しい資格となることを望んでいます。

もう一つの特筆すべき事業は、植田会長の時に始まり私が会長を務めた頃、インテリア・スーパーバイザー養成講座と並んで実施していた「インテリア設計士2級受験対策講座」です。天満橋のエル大阪で開催し、多い時で100人を超える受講者があり、理事のほとんどがその指導に関わったのです。受講者は大阪が中心でしたが兵庫や京都さらに遠方からも参加者があり、大学・専門学校の学生と一緒に一般社会人も受講されました。

受験対策講座の内容は製図初心者用の「A:実技対応、製図基礎コース3回」と実践者用の「B:実技・学科対応、受験対策講座10回」でした。100人超の受講者の指導に当たった多くの理事達の努力は大変なものでした。皆さんの努力の結果、図面を一度も描いたことのない受講者も最終的には実技図面を完成し、合格まで指導できた時の喜びと充実感はかけがえのないものでした。

実技テキストは現在の河野会長を中心として、学科テキストは理事の皆さんで作成しており、その内容は、その後本部が作成した「インテリア設計士テキスト<実技編>・<学科編>」にも多く採用されています。



この講座も受講者の減少と各学校内での対策講座対応などで、2004年(平成16年)には中止せざるを得なくなりました。今では、OISからの受験校への派遣や理事が大学などの非常勤講師として受験対策講座をしています。

今年は新型コロナウイルスへの対応で、インテリア設計士の資格検定試験が3か月延期となり、各学校での対策講座も思うように出来ず、受験者も減少すると思いますが、このような時期こそ、会員の皆さんで知恵を絞り、新企画のもとで対処しなければならぬと思っています。

会員の皆様のご意見、ご提案を是非事務局の方へ寄せていただきますようお願いいたします。

家具よもやま話

No. 8 小長谷 光

今回、家具は家具でもミニチュアの話です。ミニチュアと聞いて侮るなかれ、これがなかなかスゴイのです。

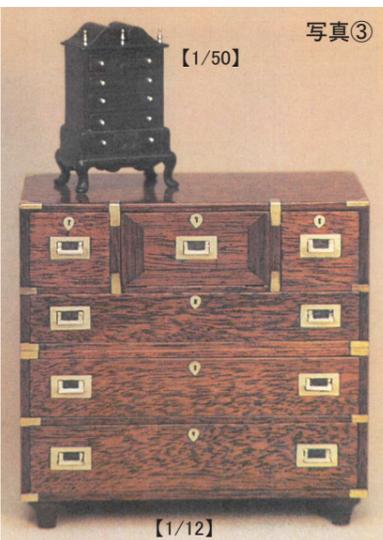
日本と外国では計量単位が異なるので、特にミニチュアでは大きな違いがでます。今回はイギリスのミニチュア作家、ジョン・ダavenport氏の著書、メイキング ミニチュア ファニチャーから取材したのでインチサイズです。

メートル・キログラム法を使う私達は10進法で物事を考えますので、12進法のヤード・ポンド法であるフィートやインチとは感覚的にも実寸で差があります。縮尺も日本では1/5や1/10が標準ですが、イギリスでは1/12が多用されます。ヨーロッパが発祥のドールハウスもこの縮尺が基本です。写真①は、ジョージ1世様式のビューローキャビネットとなっていますので、ライティングビューローと収納を兼ねたものでしょう。表面材はアンボイナ・パール杻ということで、高さのみの表記があり、7³/₄インチ(195.85mm)。縮尺の表記はありませんが、写真②の高さが7インチで1/12となっており大差はないので、同じく1/12と考えます。



写真①

写真②は、ダッチ(オランダ風)ビューローキャビネットで上記のように縮尺1/12で高さ7インチ(177.8mm)、表面材はウォルナットでボックスウッド(洋ツゲ)の精巧な象嵌(ぞうがん)が施されています。



写真③

①②共に開いた扉に付いている錠のバックセットを見ると、ちゃんと施錠ができるようです。この2点の様式を特徴付けている上部のパディメン



写真②【高さ7インチ、ボールペンと比較すると小ささがわかる】



図A【パディメントのバリエーション】

ト(破風)には形状による呼称があります。詳しくは、図Aをご覧ください。

写真③は、縮尺1/12のマホガニー材のミリタリーチェストの上に1/50のローズウッド材のハイボーイと呼ばれるチェストが置かれたものです。ハイボーイは高さ1⁵/₈インチ、わずか41.275mmだそうです。

今回は箱物だけになりましたが、脚物は別の機会にご紹介したいと思います。



◆ 編集後記 ◆

★第60回インテリア設計士資格検定試験は、1面速報のとおり実施できました。しかし、全国的にコロナ感染者が増えていまして、今年の「事遊展・忘年会」は中止といたします。来年は収まり具合をみて、徐々に催事を復活して予定します。

日常化したマスク、消毒、ソーシャルディスタンスを気にすることなく、ワイワイと声を出して話せる日が、はやく来るといいですね。(事務局)

★最近、ブロッコリースプラウトにこっています。水耕栽培トレーに種をまいて、毎日水を替えていると約1週間であわいい双葉がぎゅっしり育ちます。これを7、8個でローテーションすると毎日新鮮な野菜を食べることが出来ます。おかげさまで、体重は6kgほど減りました。コロナ禍で自宅待機が続きましたが、うれしい収穫です。(と)

◆ 原稿募集 ◆

「葉知利書」の原稿を募集しています。

- A. お気に入りの観光地 「思い出の旅行記」・「グルメの旅」...
 - B. 私の〇〇遺産 (お気に入りの建物・インテリア・家具)
 - C. その他(仕事・趣味・エッセイ等)
- ★A、B、C以外でも題材は自由です。奮って事務局にお送りください。文字数: 400字~600字程度 写真: 2~3枚添付下さい



「キャバレー」を観て

※前回掲載の「映画とインテリア」について、レビューを寄稿いただきました。興味のある人は、DVDを貸出しますので、事務局まで...

私は、1920~30年代におけるドイツのモダンデザインを取り巻く諸事情に関心を持ち続けておりました。いろいろな文献を読んでいますと目にするのが「文化の黄金時代でありジャズやキャバレー文化の繁栄と街中でのナチズムにからむ暴力沙汰が併存していた」という記述です。

DVDを拝見して、その実相をイメージさせるシーンやユダヤ人が亡命していく事実を垣間見るような、息をのむようなシーンの連続に、映画作品、フィクションではありながら、とても時代の気分が味わえた思いでした。

もちろん、エンターテインメントとしても、極上の出来と思いました。時代のインテリアと併せて、お借りすることができて、大変うれしく思います。



(塚口 眞佐子)